

大船之	津守之占専	将告登波	益為専知而	我二人宿之	万葉集 卷二 109 大津皇子
大船の	津守の占に	告らむとは	まさしに知りて	わが二人宿し	
おほふねの	つもりのうらに	のらむとは	まさしにしりて	わがふたりねし	
大船の	津守の占いに	出てくることを	まさしく知りながら	我ら二人は●●のだ	

(訳の一部を伏字にした)

<https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/>